

長く継続的な  
協力のおかげで  
今があります



### Key Person

タシケント情報技術大学学長  
サルバル・ババホジャエフさん(左)

人材育成奨学計画(JDS)で、新潟県南魚沼市の国際大学大学院に2年間留学し、経営学を専攻。これまでの15年間教育分野に携わり、ウズベキスタン国民教育省副大臣を務めた。好きな日本食はすき焼き。現在も新潟県のホストファミーとの交流を続けている。



新潟県に暮らすホストファミーとババホジャエフさん。日本文化と社会についてたくさんのこと教えてくれました。

このJICAのプロジェクトに関わったデジタル・ナレッジ社の齋藤陽亮さんは、ババホジャエフさんと面会したときの印象をこう話す。「日本語で話しかけられて驚きました。中央アジアの国々では非常に珍しいことだと思いました。ウズベキスタンの未来のために教育を変えていきたいという熱い思いが伝わってきました」。16年末の新大統領就任後に発足した新政府は、教育分野の発展に力を入れた。デジタル・ナレッジのe-Learningシステム(学習管理システム)を活用して国民教育市場の拡充が進められることになった。

### 日本との協力で 教育改革を推進

2年間の留学を経て感じたのは、「日本は伝統と現代的な側面をあわせ持った社会である」ということ。文化や家族を大切にする価値観はウズベキスタンも同様だが、日本の治安のよさや科学・工業技術の高さに感銘を受けた。さまざまな経験から日本を尊敬するようになり、帰国後は日本とのつながりをつくる機会を探っていたという。

当時をふり返った。

「日本での留学経験から教



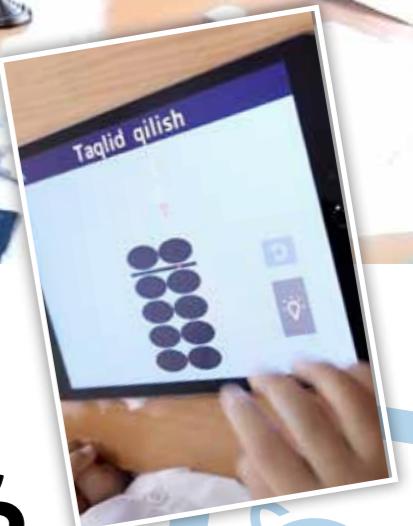
放課後の時間を  
上手に活用できる



7年生の数学の教員を対象とした研修動画。日本の質の高い教授法を伝え、ウズベキスタンの教員の能力向上を目指す。



楽しみながら  
自分で学べるよ



タブレットを使用した電子そろばん教室。子どもたちはそれぞれのペースで学習を進めていく。



## 日本での留学経験から 教育改革を推進

約20年前に日本に留学し、日本社会から大きな影響を受けたというサルバル・ババホジャエフさん。国の未来を担う人材を育てるため、教育改革に力を入れている。

文・久保田 真理

現在、タシケント情報技術大学学長を務めるババホジャエフさんは、ウズベキスタンの教育改革にさらなる意欲を示している。「新型コロナの影響で教育のデジタル化を早急に進める動きがありますが、プロジェクトから得たこれらの素晴らしい経験が後押しする可能性を秘めていると思います。ウズベキスタンと日本との協力関係がこれからも継続していくことを期待しながら、優れた教育システムを構築したいと考えています」。

